

教育実践高度化専攻

教職大学院案内

2025(令和7)年度



2025

誰も置き去りにしない、
すべての子どもの力を伸ばす
教員の育成を目指して





教職大学院 案内 2025

CONTENTS

- 01 目次
- 02 教職大学院とは／大学院組織
- 03 教職大学院の特徴
- 04 授業科目の特徴
- 05 - 06 授業科目群
- 07 - 08 学校運営コースの紹介
- 09 - 10 教育方法開発コースの紹介
- 11 - 12 児童生徒支援コースの紹介
- 13 - 16 教科領域コースの紹介
- 17 - 18 特別支援科学コースの紹介
- 19 - 20 養護科学コースの紹介
- 21 - 22 Q & A／アクセスガイド
- 23 募集関連情報





教職大学院とは

教職大学院とは、従来の「研究」を中心にすえた修士課程ではなく、現代的な教育課題に実践的に対応できる力を育てることを目的として設置される専門職学位課程です。国立の教員養成系大学院は、すべて教職大学院に移行することになっています。

茨城大学では、2016 年度に学校運営コース、教育方法開発コース、児童生徒支援コースの3 コースが開設されました。

さらに 2021 年度の改組からは、教科領域コース、特別支援科学コース、養護科学コースが設置され、6 コース制の教職大学院となりました。

専門職学位課程

教育実践高度化専攻
定員 43 名

学校運営コース／現職教員対象／定員 7 名 → 詳細は p07-08

【育成する教員像】教育政策を踏まえ、様々な課題を抱えた子どもたちを支援する「チーム学校」の構築にリーダーシップを発揮できる教員。課題解決に資する学校マネジメントの深い知識を備え、学校ビジョンを形成し、スクールリーダーとして学校づくりに貢献できる教員。

教育方法開発コース／現職教員・学部新卒者等／定員 4 名 → 詳細は p09-10

【育成する教員像】広い視野から育成すべき資質・能力をとらえ、児童生徒理解に基づいて、学びを深める授業づくりや指導方法（発問や教材、対話の場、個の学びの見とり等）を構想・展開できる教員。授業研究を通して実践を省察し、授業改善を図ることのできる教員。

児童生徒支援コース／現職教員・学部新卒者等／定員 4 名 → 詳細は p11-12

【育成する教員像】生徒指導上の課題に対して、個性や背景、学級集団の実態をアセスメントしたうえで、子どものニーズを的確に読み取ることができる教員。心理学の理論やカウンセリングの技術を活かして、授業や学級経営を通じて個に応じた支援を工夫できる教員。

教科領域コース／現職教員・学部新卒者等／定員 22 名 → 詳細は p13-16

【育成する教員像】児童生徒の実態に応じ、教科内容の深い知識と概念を社会の変化や課題の複雑化に対応させて、教科指導に活かすことができる教員。教科・分野横断的な視点を踏まえた教材開発や教科内容の在り方を、校内や近隣の学校にも発信することができる教員。

特別支援科学コース／現職教員・学部新卒者等／定員 3 名 → 詳細は p17-18

【育成する教員像】特別支援学校や特別支援学級に通う子どもにアセスメントを実施し、子どもの実態を深く理解したうえで、その情報をもとに支援方法を考えることができる教員。アセスメントによって把握した障害特性を踏まえ、専門的な授業を展開することができる教員。

養護科学コース／現職教員・学部新卒者等／定員 3 名 → 詳細は p19-20

【育成する教員像】養護の高度な専門性と多職種連携によるカリキュラム・マネジメント能力を持つ教員。児童生徒の発達段階を踏まえ、健康に関する科学的理解と養護の専門性を活かし、学校内外の教職員等との連携と協働を推進して創造的に実践することができる教員。

教職大学院の特徴

目 標

理論と実践の往還

教職大学院では、理論と実践を往還させながら高度な実践力を獲得することを目標にしています。そのため、学修は授業だけでなく実習を含みます。学部教育実習とは異なり、コース間の学生が協働して取り組む「コース間融合実習」、コース別で専門性を深める「コース別実習」を用意し、多様なニーズに応えます。いずれの実習も大学院での様々な授業で理論を学び、その理論をもって実習校や実習施設で実践します。そして、実習校や実習施設で行った実践を理論的な見地から捉え直し、さらに新たな視点を獲得するプロセスを経ます。大学の授業と実習を往還させながら、高度な実践力を育成するようなカリキュラムになっています。

目指すこと

誰も置き去りにしない、すべての子どもの力を伸ばす教員の育成を目指します

カリキュラム・マネジメント能力を備えた高度な教育実践力を有した教員を育成するために、以下の三つの能力を身に付けます。

身に付ける能力

1. 「子どもを深く理解できる力」

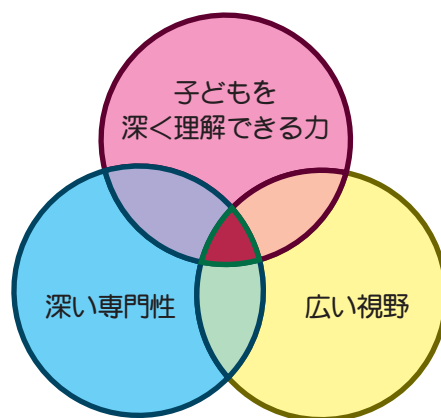
子どもの諸能力・技能を多面的に評価するとともに、子どもの願いや苦悩に寄り添い、またその背景にある環境にも目を配りながら、子どもの真の学習ニーズを理解できる力。

2. 「広い視野」

社会の変化やニーズと子どもの実態を踏まえながら、同僚や様々な人と協働し、学際的・多面的な広い視野で教育上の課題を探索できる力。

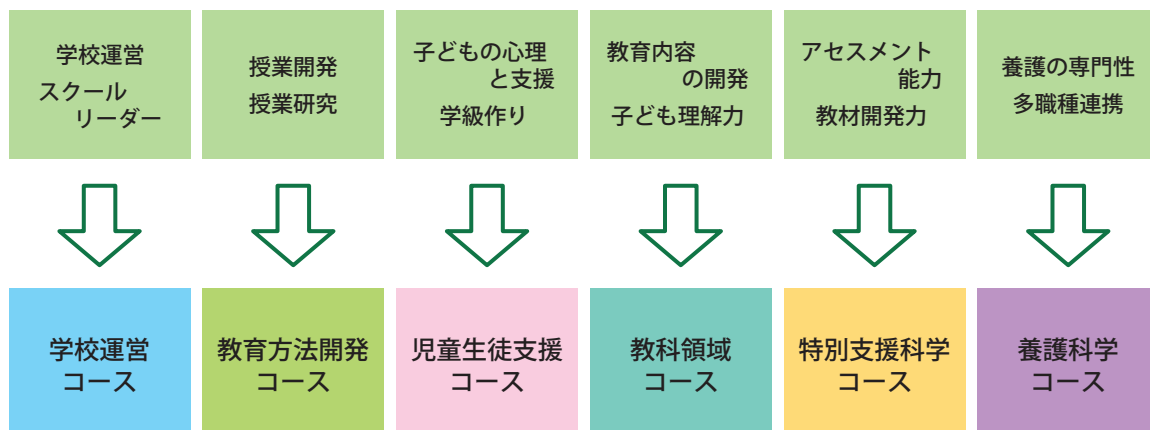
3. 「深い専門性」

子ども理解や広い視野に基づく教育上の課題と自分の専門分野を結び付けて、その課題解決のための方法をさらに深く追究できる力。



教職大学院のコースの特徴

教職大学院には6つのコースが用意されています。各コースのキーワードは以下のようになります。



コースの特徴

少人数での授業

専門科目の授業は、少人数で行われるものが数多くあります。授業の題材は、具体的なもののばかりのため、様々な意見を出しやすく、討論も盛んに行われます。ほかの人の意見を聞くことで、自分にはない観点到に触れることになります。

実務家教員と研究者教員の TT による授業

これまでの修士課程と違い、研究者教員と実務家教員の TT（ティーム・ティーチング）によってすすめられる授業もあります。実務家教員というのは、長年、学校で教鞭をとってきた経験豊富なベテラン教員です。一つのトピックに対して、研究者教員の理論的な観点と、実務家教員の実践的な観点の両方の観点を取り入れた授業となります。



現職派遣教員と学部新卒者による協働の学び

教職大学院には、現職派遣教員が数多く学んでいます。現職としての経験を 10 年以上、多い人は 20 年以上もの経験を有しているベテランの先生たちで、学校で起こる様々な出来事に対する豊かな実践知を備えている先生が多いです。この現職派遣教員と学部新卒者とが一堂に集まって行われる授業もあります。学部新卒者にとっては、自分の不安や分からないことを現職派遣教員に相談できたり、同じ課題に対する現職ならではの見方を教えてもらったりすることによって、具体的で実践的な学びが促進されることを期待できます。現職教員にとっては、学部新卒者と話をすることで、若手の情熱や純粋な気持ちにふれて、自分を振り返ることが多いようです。

校内研修の企画・立案と実践の授業風景

この授業では、大学の教員 4 名、現職教員 9 名、学部新卒学生 6 名で授業が行われます。写真は学部新卒者が企画した校内研修について発表し、それに対する討論や意見交換をしているところです。



新しい修了のかたち

教職大学院では修士論文を書くことは必須の条件ではありません。教職大学院は高度な実践力をもった教員を育成することを目的にしていますので、修士論文という形ではなく、専門的な学びを実習とリンクさせながら問題解決の力を身に付けます。その方法は、自分が教員として必要だと思う力量を、現場での実習で実践することでも得られますし、実習を通して感じた疑問を調査や実験等の研究的視点をもって解決策を考えることもできます。その研究成果は、実践研究報告書としてまとめ、研究報告会において発表していきます。様々な立場の先生たちから意見や感想を寄せてもらえるので、自分の実践・研究を多角的にとらえる機会となります。

教育実践フォーラムの全体会の様子(2023 年 3 月)

全体会では、「社会に開かれた教育課程の実現にむけて」というテーマで、県立歴史館での実習についてのパネルディスカッションを行いました。まず歴史館の担当者が、地域・学校と歴史館の教育的連携についてお話しされ、続いて本学教員が実習の概要を紹介し、その実習の様子を大学院生が報告しました。そして最後に歴史館担当者に本実習についての総評をいただいたうえで、会場との質疑応答となりました。オンライン環境を活用した結果、茨城県の内外からたくさんの教員や学生が参加しました。なおこの全体会のあとは、各コースに分かれて修了生の実践発表を行いました。



学生の多様なニーズに対応する授業科目群

「共通科目」「専門科目」「実習科目」からなる授業科目で編成されています。カリキュラム・マネジメント能力に関しては、「共通科目」で6コース共通の必修科目で学ぶとともに、「子どもを深く理解できる力」、「広い視野」、そして「深い専門性」の3つの資質・能力に関しては、各コースの専門性に応じて「共通科目」「専門科目」「実習科目」で構成される全体のカリキュラムの中で修得していきます。

共通科目

教職大学院では、すべての学生が共通に履修すべき5つの授業科目群があります。共通科目は20単位（学校運営、教育方法開発、児童生徒支援）または18単位（教科領域、特別支援科学、養護科学）以上取得する必要があります。本学教職大学院の共通科目には以下の3つの特色があります。

特色① 習得させる能力の要となる「カリキュラム・マネジメントの理論と実践」を6コースの全学生の必修として設定しています。

特色② 現職教員・学部新卒者等の学生の多様性、学びの多様性のニーズに応えるために、全学生に必修とする科目と、選択必修とする科目を配置しています。

特色③ 定められた5つの授業科目群に加え、校内研修のキーパーソン、そして地域の自主的な研修の担い手を育成するために、本学独自の科目群として「学校改善と校内研修」を設定しています。

専門科目

専門科目には、深い専門性を習得するためのコース別科目に加え、現代的教育課題等をテーマとして、教科・分野横断的視点を養うためのコース融合科目を設定しています。専門科目は18単位（学校運営、教育方法開発、児童生徒支援）または20単位（教科領域、特別支援科学、養護科学）以上取得する必要があります。

多様な学びのニーズに対応した授業科目の一覧

		学校運営コース	教育方法開発コース	児童生徒支援
共通科目	【領域 1】 教育課程編成・実施	カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅰ《1単位：6コース必修》		
	【領域 2】 教科等の実践的な 指導方法	ICT 活用とプログラミング		
		子ども理解にもとづく学習指導《2 単位：必修》 授業研究の方法と実践《2 単位：必修》		
	【領域 3】 生徒指導，教育相談	発達障害児の理解と支援		
		教育相談の課題と支援《2 単位：必修》		
	【領域 4】 学級経営，学校経営	インクルーシブ教育の学校づくり		
		学校マネジメント実践演習《2 単位：必修》 学級経営実践演習《2 単位：必修》		
	【領域 5】 学校教育と教員の在り方	茨城の教育改革と開かれた学校づくり		
教師のライフステージと資質向上《2 単位：必修》				
【領域 6】 学校改善と校内研修	校内研修の企画・立案と実践《2 単位：必修》			
専門科目	コース別科目	教育政策の実施と評価 教育行財政と法規 学校危機管理論と実践演習 課題研究Ⅰ～Ⅳ など	教材研究と授業設計 授業研究による授業改善 人間形成の現代的課題と学習指導 課題研究Ⅰ～Ⅳ など	学校不適応問題への 学級経営と個別指導 学級づくりとソーシ 教育の実践法 課題研究Ⅰ～Ⅳ
	コース間融合科目	学校を基盤としたカリキュラム開発と実践 学習指導・学習評価の課題と方法 教育カウンセリング実践と事例研究		
			教育臨床問題と道徳	子ども理解と学習支援
実習科目	コース別実習	学校運営開発実習Ⅰ・Ⅱ	教育方法開発実習Ⅰ・Ⅱ	児童生徒支援実習 学校適応アセスメ 学校適応支援実習
	コース間融合実習	課題発見実習		

実習科目

理論と実践を往還するために、共通科目や専門科目で修得された知識を実践の場で検証するための多様な実習科目を設定しています。専門科目と同様に、それぞれのコースで専門性に応じた実習科目（コース別実習）と、コース間で協働して取り組む実習科目（コース間融合実習）を設定しています。実習科目は 10 単位（全コース共通）以上取得する必要があります。

コース間融合科目・実習

本学教職大学院における専門科目と実習科目では、専門性の異なる学生が協働して問題解決に取り組むコース間融合科目やコース間融合実習を設定しています。このような“融合”の科目を設定することで、個人が有している専門性に閉じることなく、同僚と協働し、地域や保護者と連携し、その専門性を学校や地域、そして社会に存在している様々な課題の解決に活用できる力が身に付くことが期待できます。

コース間融合科目（専門科目）の一例

子ども理解と学習支援
教育方法開発と児童生徒支援の融合科目。子ども理解と学習支援とを相互に関連づけた指導の在り方について、PBLの手法を用いて教育学、心理学双方の見方を活かして学びます。

ことばの諸相と教育
教科領域の国語科、社会科、英語科の融合科目。英語と日本語の語彙の対比等、ことばの認識と文化の問題について理解を深め、教材作成と教育活動に応用する力を育成します。

コース間融合実習（実習科目）の一例

課題発見実習
学校運営、教育方法開発、児童生徒支援の融合科目。附属学校の観察及び実践補助を行い、児童生徒の発達・学校種に即した学習内容や教育活動の全体像を把握し、学校運営の課題とともに、教師の指導の在り方を多面的に学びます。本実習をとおり、幅広い視野から学校や自身の課題を明確化します。

教材開発実習 IA
教科領域、特別支援科学、養護科学の融合科目。児童生徒の実態と教科・分野横断的な視点を踏まえ、学習支援活動と表現ワークショップ活動を主企画・運営します。本実習をとおり、教科・分野横断的な幅広い視野に基づいた教材開発力や、特別な支援を必要とする子どもへの教材開発力を身に付けます。

コース	教科領域コース	特別支援科学コース	養護科学コース
カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ《1単位：コース別必修》			
《2単位》			
	主体的・対話的で深い学びの授業づくり《言語・社会・生活科学系，自然・科学技術系，芸術・スポーツ系より2単位選択》 特別支援教育の自立活動の授業づくり《2単位：特支必修》 心とからだの発達と保健《2単位：養護必修》		
《2単位：6コース必修》			
	子どもの健康と生徒指導《2単位：必修》 特別支援学校のセンター的機能とケースカンファレンス《2単位：特支必修》		
《2単位：特支必修》			
	学級力を高めるコミュニケーション《2単位》		
《2単位：6コース必修》			
	学校における多様性の受容と活用《2単位》		
	教育測定（評価）と校内研修《2単位：必修》		
理解と対応 の実践 ヤルスキル など	《各教科に応じた科目》 〇〇科内容総合研究 〇〇科目研究 〇〇科総合演習 など	特別支援学校の教材開発 特別支援学校の授業づくり 知的障害児のアセスメントと支援 課題分析演習 など	健康科学と社会創造 学校における医学・看護学 臨床医学特論 課題分析演習 など
	ことばの諸相と教育(国・社・英)，近代化と現代の生活問題(国・社・家)，社会の数理(社・数) 芸術の言葉(音・美)，時間と空間の表現世界(音・美・英)， あそびに学ぶ(音・美・英)，読み・書き・計算のつまずきと支援(特支・国・数)， 動きにぎこちなさがみられる子どもの指導方法(特支・保体・技・養護)， 茨城に学ぶⅠ・Ⅱ(社・理・美・家・技)，防災を含む安全に関する教育(社・理・保体・技)， 持続可能な開発目標(SDGs)を学ぶ(理・家)，課題探索演習(全教科・特支・養護)		
ント実習	教科領域実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	特別支援教育教材開発実習Ⅰ・Ⅱ 特別支援教育アセスメント実習Ⅰ・Ⅱ 特別支援教育ケースカンファレンス実習Ⅰ・Ⅱ	養護科学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
	教材開発実習ⅠA・ⅠB		
	教材開発実習ⅡA・ⅡB		
	子どもと大人への一次救命処置実習		

コースの特徴

- ◆現場での実習を通して、校長の掲げる方針と自身の探索課題を擦り合わせることで学校運営の実践力を確かな視野で展開できるビジョン形成力を育成する。
- ◆法制度や政策を正しく理解するとともに現場での実習を通して「特色ある学校づくり」やP D C Aサイクルを実践できるマネジメントの専門性を育成する。
- ◆授業実践や子ども理解など、教員の直面する課題の解決を実現するために学校全体の協働性を構築し、リードできるリーダーシップとその行動力を育成する。

育成する教員像

学校ビジョンを形成する力を根底におき、学校マネジメントの本質的な理解を深めることで、スクールリーダーとして学校づくりに貢献できる教員。

身に付ける能力

- (1) 子どもを深く理解できる力
(子ども支援組織構築のリーダーシップ)
- (2) 広い視野
(教育政策を踏まえたビジョン形成力)
- (3) 深い専門性
(学校マネジメントの深い専門性)

取得可能免許 【専修免許】 幼稚園、小学校、中学校（各教科）、高等学校（各教科）、養護教諭

修了要件《48単位》

共通科目《20単位》

教育課程の編成《2単位》
教科の指導法《4単位》
生徒指導・教育相談《4単位》
学校経営・学級経営《4単位》
教員の在り方《4単位》
学校改善・校内研修《2単位》

専門科目《18単位》

コース別科目
《16単位》
コース間融合科目
《2単位》

実習科目《10単位》

コース別実習
《8単位》
コース間融合実習
《2単位》

理論と実践の往還

修了生の研究テーマ／例

- ◆「思考力・判断力・表現力」の育成を推進するマネジメントの在り方
～「ミドルリーダー会議」によるチームの活性化と学習指導法の共有を通して～
- ◆学校の共有ビジョンを形成するための主体的・自律的な校内研修体制の構築
～次代を切り拓く児童を育成する環境教育のカリキュラム開発に向けて～
- ◆道德教育の推進を図るカリキュラム・マネジメント
～ユニット型学習指導計画の作成と協働型指導体制の確立を通して～
- ◆キャリア教育を推進するカリキュラム・マネジメントの在り方
～教科等横断的に取り組むカリキュラム編成とリモートツールの活用等を通して～

時間割の例／1年次（令和6年度）

前期	月	火	水	木	金
1 講時	発達障害児の理解と支援	教師のライフステージと資質向上	実習		
2 講時	学級経営実践演習	授業研究の方法と実践		教育政策の実施と評価	学校を基盤としたカリキュラム開発と実践
3 講時	カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅰ			スクール・リーダーシップとその実践	
4 講時	茨城の教育改革と開かれた学校づくり			子ども理解にもとづく学習指導	ICT 活用とプログラミング
5 講時				学校運営課題研究Ⅰ	
【集中開講】 学校運営実践研究Ⅰ（通年）／カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ					
【実習】 課題発見実習（附属学校園で 10 日間）					
※前期実習は集中的な日程で行います。					

後期	月	火	水	木	金
1 講時			実習	インクルーシブ教育の学校づくり	
2 講時		教育行財政と法規		学校における評価マネジメント実践演習	教育相談の課題と支援
3 講時				学校危機管理論と実践演習	校内研修の企画・立案と実践
4 講時					学校マネジメント実践演習
5 講時				学校運営課題研究Ⅱ	
【集中開講】学校運営実践研究Ⅰ（通年）					
【実習】学校運営実習Ⅰ（実習は、後期 10 月～1 月、毎週水曜日、16 日間程度）※後期実習は現任教で毎週水曜日に行います。					

（青：共通科目 緑：専門科目 オレンジ：実習科目）

実習について

実習の選択例		1 年次					2 年次				
		前期		9 月	後期		前期		9 月	後期	
		1 Q	2 Q		3 Q	4 Q	1 Q	2 Q		3 Q	4 Q
学校運営	現職	課題発見実習 (附属学校園②)		学校運営開発実習Ⅰ (現任校③)			学校運営開発実習Ⅱ (現任校⑤)				

●1年前期（課題発見実習）（○内の数字は単位数）

附属学校園での実習を通して、自分が追究する実践的な研究テーマや課題の発見を目指します。

●1年後期（学校運営開発実習Ⅰ）

毎週1回、現任校で実習を行います。学校運営の課題について、授業やカリキュラムも含めて、管理職や教職員、保護者（PTA等）・地域（学校評議員等）の方々などからも話を聞くことで学校の内外に関する分析を行います。これらを通して、現任校において自分が取り組むべき課題を探索します。

●2年（学校運営開発実習Ⅱ）

現任校において勤務しながら研究の取り組みを実習として位置づけます。実習Ⅰで探索した現任校における自分の学校運営上の課題に取り組み、実践して、全体の評価を行います。

修了生の声



寺内博雅さん

笠間市立みなみ学園義務教育学校勤務
2023年度修了

学校運営コースでは、活力のある学校づくりの実現という視点から、組織マネジメントやリーダーシップ、カリキュラム・マネジメント、教育政策などについて学びました。知識を得ることはもちろん、院生同士でのディスカッションやワークショップを通して様々な考えや思いに触れ、自己の教育観をアップデートできました。研究としては、学校組織目標の実現に向けて、義務教育学校の特徴である9年間一貫教育という強みを生かした校内研修組織の整備や授業研究の推進に取り組みました。前期課程（1～6年生）と後期課程（7～9年生）の職員をバランスよく混合させた授業研究グループを組織し、前・後期課程の壁を超えて情報交換をしたり、有効な手立てを共有したりすることで、9年間のつながりを意識した教育活動を展開しました。勤務校から離れて見つめ直すことで勤務校の強みに気づき、その強みをどのようなマネジメントによって最大限生かすかという広い視野をもてるようになりました。学校運営に携わる経験が少なかった自分にとって、入学当初は学修に対して不安もありましたが、新たな視点を与え、導いてくださる先生方や教育に深い情熱をもった仲間と共に、新たな知見を得て、学ぶ楽しさを感じることができました。教職大学院での2年間の学びは、大変貴重な財産となりました。この経験を生かし、活力のある学校づくりに貢献していきたいです。

特徴 コースの

- ◆広い視野に立って求められる資質・能力や授業像を理解するとともに，児童生徒の実態に即し，学びを深める授業づくりや効果的な指導方法（発問，対話の場の設定，個の学びの見とり等）を実践的に学ぶ。
- ◆2年間の継続性・発展性を活かした実習と省察の重視により，児童生徒の学びの姿（興味関心，考えや理解の状況，つまずき等）に基づいて授業を構想する力，実践を振り返り改善する力を高める。

教員像 育成する

《学部新卒者等》幅広い視野から育成すべき資質・能力，授業像をとらえ，児童生徒の実態に即した授業の構想・展開を行うとともに，授業を省察し，授業改善を図ることのできる教員。

《現職教員》幅広い視野と深い児童生徒理解に基づいて，授業を構想・展開できる実践的指導力を身に付けるとともに，実践の省察によって自らの授業改善を図り，校内研修等を通して学校全体の授業研究をリードすることのできる教員。

能力 身に付ける

- (1) 子どもを深く理解できる力（児童生徒の学習状況の把握，多面的な児童生徒理解）
- (2) 広い視野（今日の社会と求められる資質・能力，授業像の理解）
- (3) 深い専門性（授業づくり・授業研究に関する専門性）

取得可能免許 【専修免許】 幼稚園，小学校，中学校（各教科），高等学校（各教科），養護教諭

修了要件《48単位》

共通科目《20単位》

教育課程の編成《2単位》
教科の指導法《4単位》
生徒指導・教育相談《4単位》
学校経営・学級経営《4単位》
教員の在り方《4単位》
学校改善・校内研修《2単位》

専門科目《18単位》

コース別科目
《12単位》

コース間融合科目
《6単位》

理論と実践の往還

実習科目《10単位》

コース別実習
《8単位》

コース間融合実習
《2単位》

修了生の研究テーマ／例

- ◆学習意欲を高め，主体的・能動的に学ぶ力を育てる授業実践の在り方（学部新卒者）
－児童一人一人の見方を広げ深める学習を目指して－
- ◆生徒どうしが学び合う授業への手立てに関する検討
－「生徒どうしが学び合える学習課題」に着目して－（学部新卒者）
- ◆考えの形成を促す指導方法の在り方
－国語科学習における「対話」の場面を中心として－（現職）
- ◆科学的に探究する学習過程の場を工夫した授業の在り方
－論理的思考力を育成する授業実践を通して－（現職）

時間割の例／1年次（令和6年度）

前期	月	火	水	木	金
1 講時	発達障害児の理解と支援	教師のライフステージと 資質向上	実習	人間形成の現代的課題と 学習指導	
2 講時	学級経営実践演習	授業研究の方法と実践		教材研究と授業設計	
3 講時	カリキュラム・マネジメント の理論と実践Ⅰ	学習指導・学習評価の 課題と方法			
4 講時	茨城の教育改革と 開かれた学校づくり			子ども理解にもとづく 学習指導	ICT 活用と プログラミング
5 講時				教育方法開発課題研究Ⅰ	
【集中開講】教育方法開発実践研究Ⅰ（通年）／カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ（前期） 【実習】課題発見実習（附属学校園で 10 日間）					
※実習は集中的な日程で行います。					

後期	月	火	水	木	金
1 講時			実習	インクルーシブ教育の学校づくり	
2 講時		授業研究による授業改善		教育臨床問題と道徳	教育相談の課題と支援
3 講時					校内研修の企画・立案と実践
4 講時				子ども理解と学習支援	学校マネジメント実践演習
5 講時				教育方法開発課題研究Ⅱ	
【集中開講】教育方法開発実践研究Ⅰ（通年）					
【実習】教育方法開発実習Ⅰ（後期, 15 日間集中）					
※実習は集中的な日程で行います。					
（青：共通科目 緑：専門科目 オレンジ：実習科目）					

（青：共通科目 緑：専門科目 オレンジ：実習科目）

実習について

実習の選択例		1年次				2年次			
		前期		9月	後期		前期		9月
		1Q	2Q		3Q	4Q	1Q	2Q	
教育方法開発	学新卒	課題発見実習（附属学校園②）		教育方法開発実習Ⅰ（協力校③）			教育方法開発実習Ⅱ（協力校⑤）		
	現職						教育方法開発実習Ⅱ（現任校⑤）		

●1年前期（課題発見実習）（○内の数字は単位数）

附属学校園での実習を通して、自分が追究する実践的な研究テーマや課題の発見を目指します。

●1年後期（教育方法開発実習Ⅰ）

連携協力校での実習（15日間）を行います。原則、週4日間の実習とし、1日はその週の実践の省察と次週に向けての改善を図ります。各自の研究課題に関連づけて、発問や教材、学習活動等の工夫を取り入れた授業・指導方法の実践を行い、児童生徒の学びの姿に基づいて成果と課題を把握し、次年度につなげます。

●2年通年（教育方法開発実習Ⅱ）

前年度と同じ連携協力校での実習（25日間）を行います（現職は現任校）。2年間の継続性を活かして、学校・児童生徒理解を深めるとともに、前年度の反省点を踏まえて単元・指導方法を構想・実践し、成果と課題をまとめます。研究課題に基づく実践のみでなく、学級や学校の様々な教育活動に関わり、教員としての実践的な力量を高めます。

修了生の声



鈴木開登さん

結城市立城南小学校勤務
2023年度修了

私はこの教育方法開発コースで、一回りも二回りも成長することができたと実感しています。私は学部4年生の時、教員採用試験で不合格でした。その結果が分かった時、感じたのは悔しさや悲しさよりも、自分の教師としての力の無さでした。このままではいけないと一念発起し、私はもう一度教職について深く勉強することを決め、このコースに進学しました。1年次生では、現職派遣でいらっしゃった先生や同じ学部卒の院生と共に、授業内で意見や考えを交流し、教職に対する知識を深めました。特に印象に残っているのは、授業名人と呼ばれている先生の授業の逐語録から、当時の授業風景を考察するという授業です。逐語録上の教師や子どもたちの言葉から、どういう意図でこの発言、発問をしたのかと考察した後に、実際の授業映像を見ることで、より深く多様な視点から授業研究をすることができました。そしてこのコースでは、2年間の継続的な実習が設定されているため、授業で獲得した理論を教育現場で実践することができるという、理論と実践の往還を確かに感じました。またゼミの活動の一環として県内外の様々な小、中学校の授業研究会に参加させていただきました。現場の先生方の授業を参観し、その後の検討会にも参加させていただいたお陰で、教師としての引き出しを増やすことができました。昨年、教員採用試験にも無事合格しました。4月から教師として学んだことを活かしながら頑張ります。

児童生徒支援コース 【学位名称】 教職修士（専門職） 【対象学生】 現職教員，学部新卒者等

特徴 コースの

- ◆生徒指導や教育相談，カウンセリングやソーシャルスキルトレーニングの理論と技法を学び，それらを学級経営や授業，部活動等での関わりに活かすことで，個に応じた指導を工夫できる力を育成する。
- ◆学校になじめない子どもの能力・適性，興味・関心，性格，家庭環境等の多様な背景を理解し，支援の観点を得るために適応指導教室での実習を行う。そこでの学修を踏まえて，小中学校での実習に展開し支援方法を探る。

育成する 教員像

《学部新卒者等》生徒指導上の課題を理解し，それが授業や学級経営の中でどのように対応されているかを知ることによって，実際の取り組みに活かせる教員。
《現職教員》生徒指導上の課題を多面的・多角的にアセスメントし，個と集団の実態に応じて適切に対応でき，学校内外の協力体制によりチームで対応できる教員。

身に 付ける 能力

- (1) 子どもを深く理解できる力（背景を踏まえた多面的な児童生徒理解）
- (2) 広い視野（チームでの支援，学校内外との連携力）
- (3) 深い専門性（児童生徒の成長を促進する支援力）

取得可能免許 【専修免許】 幼稚園，小学校，中学校（各教科），高等学校（各教科），養護教諭

修了要件《48単位》

共通科目《20単位》

教育課程の編成《2単位》
教科の指導法《4単位》
生徒指導・教育相談《4単位》
学校経営・学級経営《4単位》
教員の在り方《4単位》
学校改善・校内研修《2単位》

専門科目《18単位》

コース別科目
《12単位》
コース間融合科目
《6単位》

理論と実践の往還

実習科目《10単位》

コース別実習
《8単位》
コース間融合実習
《2単位》

修了生の研究テーマ／例

- ◆ピアフィードバックを取り入れたライティング力向上を目指す英語授業の実践
- ◆友人関係満足感の向上に関する理論と実践
ーアサーショントレーニングの実践を通してー



■児童生徒支援実習における事例検討会
適応指導教室における実習の集大成として，関係職員の協力の下，事例検討会を行っています。アセスメントの方法や個に応じた支援の仕方について，より専門的に学ぶことができます。



■院生控室

学校運営，教育方法開発，児童生徒支援の3コース（1年次）で使用しています。コースの枠を越えて対話できる環境が整っています。

時間割の例／1年次（令和6年度）

前期	月	火	水	木	金
1 講時	発達障害児の理解と支援	教師のライフステージと資質向上	実習		
2 講時	学級経営実践演習	授業研究の方法と実践		学級経営と個別指導の実践	
3 講時	カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅰ				
4 講時	茨城の教育改革と開かれた学校づくり	学級集団づくりとソーシャルスキル教育の実践法		子ども理解にもとづく学習指導	ICT 活用とプログラミング
5 講時				児童生徒支援課題研究Ⅰ	
【集中開講】 児童生徒支援実践研究Ⅰ（通年）／カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ					
【実習】 課題発見実習（附属学校園で 10 日間）					
※前期実習は集中的な日程で行います。					

後期	月	火	水	木	金
1 講時			実習	インクルーシブ教育の学校づくり	
2 講時				教育臨床問題と道徳	教育相談の課題と支援
3 講時	教育カウンセリング実践と事例研究				校内研修の企画・立案と実践
4 講時	学校不適応問題への理解と対応			子ども理解と学習支援	学校マネジメント実践演習
5 講時				児童生徒支援課題研究Ⅱ	
【集中開講】 児童生徒支援実践研究Ⅰ（通年）					
【実習】 児童生徒支援実習Ⅰ（毎週水曜日、15～17 日間、合計 120 時間） ※後期実習は適応指導教室で毎週水曜日に行います。					

（青：共通科目 緑：専門科目 オレンジ：実習科目）

実習について

実習の選択例		1年次					2年次				
		前期		9月	後期		前期		9月	後期	
		1Q	2Q		3Q	4Q	1Q	2Q		3Q	4Q
児童生徒支援	学新卒	課題発見実習（附属学校園②）		児童生徒支援実習（適応指導教室③）			学校適応アセスメント実習（協力校③）		学校適応支援実習（協力校②）		
	現職						学校適応アセスメント実習（現任校③）		学校適応支援実習（現任校②）		

（○内の数字は単位数）

●1年前期（課題発見実習）

附属学校園での実習を通して、自分が追究する実践的な研究テーマや課題の発見を目指します。

●1年後期（児童生徒支援実習）

毎週1回、適応指導教室で実習を行います。不登校の子どもたちの声に耳を傾け、その経過観察を通して、子どものアセスメント方法や支援の技術を学びます。

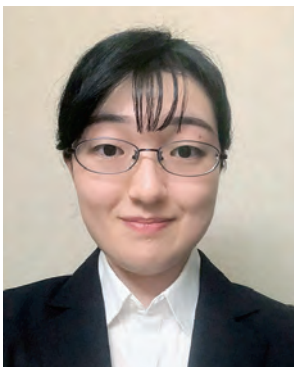
●2年前期（学校適応アセスメント実習）

連携協力校で実習を行います（現職は現任校）。学級の実態や児童生徒をアセスメントするためのデータを収集したうえで支援方法を検討します。それを実践してみて、より実態に即した支援方法の開発を目指します。

●2年後期（学校適応支援実習）

前期と同じ学校・学級で実習をします。前期実習を通して開発された支援方法を実施し、その省察を通して全体の評価を行います。

修了生の声



伊藤 蒼さん

福島県いわき市立好間第二小学校勤務
2023年度修了

児童生徒支援コースでは、講義や実習を通して、困難を抱えている児童生徒との向き合い方や、児童生徒一人一人の特性に応じた教育支援の方法について学ぶことができました。特に印象に残った経験は、適応指導教室での実習です。適応指導教室では、児童生徒一人一人と丁寧に向き合い、様々な背景を理解し、様々な思いに触れることができました。また、児童生徒一人一人にどのような支援が必要であり、そのためにどのような教材や人的・社会的資源を活用することができるのかについて、時間をかけて深く考えることができました。児童生徒一人一人の立場から学校と家庭、社会というつながりを見つめ直し、その中で教師の立場からできることは何かについて考える、大変貴重な経験となりました。研究では、自身のストレスと上手く付き合えない児童が、自分の物事の捉え方を変容できるようになることで、自身のストレスを低下・抑制させることができるようになることを目的として、実践を行いました。本コースで学んだことを活かし、学部時代には無かった新たな視点で、児童と接し、授業を実践しました。教職大学院では、現職の先生方との交流を通して、多くの生きた経験知を得ることができ、教師として働くことに対する意欲や自信につながりました。

特徴
コースの

育成する
教員像

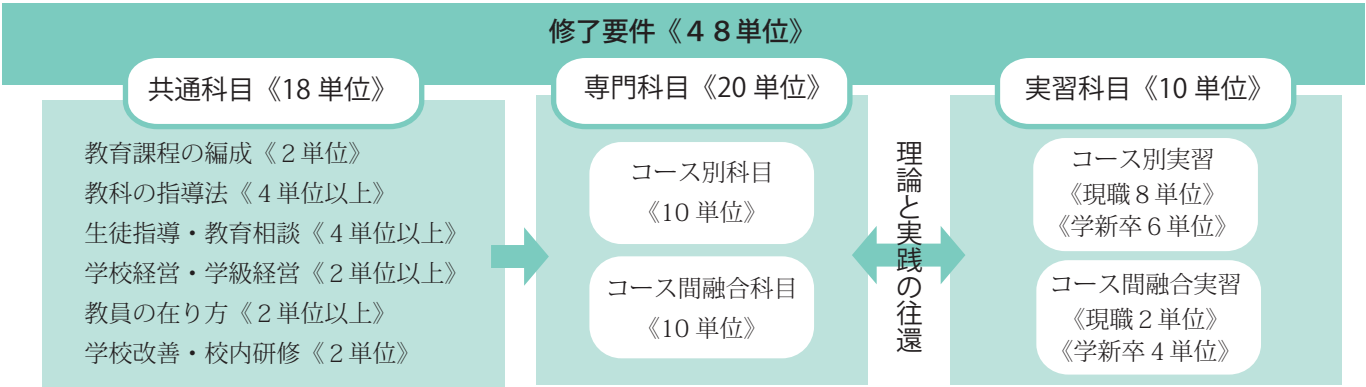
身に
付ける
能力

- ◆各教科の内容に係る専門科目，教科・分野を横断した融合科目，特別支援や養護の視点に基づいた子どもの適切な実態把握を可能とする科目の履修を通じて，教科内容の深い理解に基づく教材開発力を身に付けることができる。
 - ◆異年齢，異学年・同学年チュートリアルによる融合実習での学びを通じて，協働して課題解決にあたる資質・能力を培うとともに，学校種（勤務先）にとらわれないフィールドでの実習により，小・中学校，高等学校間の接続を意識し，実践につなげることができる。
- 《学部新卒者等》児童生徒の実態に応じて，教科内容の深い知識と概念を社会の変化や課題の複雑化に対応させつつ，教科指導に生かすことができる教員。
- 《現職教員》教科指導における「経験知」と「内容知」，教科・分野の枠を超えた多様な「方法知」を有機的に結び，総合的に活用する視点を身に付けるとともに，教材開発や教科内容に関する研究の在り方を校内や近隣の学校にも発信することができる教員。

- (1) 子どもを深く理解できる力（多様な子どもの学習能力の実態把握）
- (2) 広い視野（教科・分野横断的視点）
- (3) 深い専門性（教科の深い専門性）

取得可能免許

- 【専修免許】 小学校
中学校（国語，社会，数学，理科，音楽，美術，保健体育，保健，技術，家庭，英語）
高等学校（国語，地理歴史，公民，数学，理科，音楽，美術，書道，保健体育，保健，家庭，工業，英語，情報）



時間割の例／1年次（令和6年度）
社会科を主として学ぶ場合

前期	月	火	水	木	金
1 講時	発達障害児の理解と支援				学級力を高めるコミュニケーション
2 講時		社会科科目研究（歴史）		主体的・対話的で深い学びの授業づくり（言語・社会・生活科学系）	
3 講時	カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅰ	社会科内容総合研究	実習	あそびに学ぶ	
4 講時	茨城の教育改革と開かれた学校づくり				ICT活用とプログラミング
5 講時					
【集中開講】カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ／課題探索演習／社会科総合演習ⅠA 【実習】教材開発実習ⅠA／教材開発実習ⅠB（通年）／教科領域実習Ⅰ（通年） （青：共通科目 緑：専門科目 オレンジ：実習科目）					
後期	月	火	水	木	金
1 講時	持続可能な開発目標（SDGs）を学ぶ				
2 講時	教育測定（評価）と校内研修			学校における多様性の受容と活用	防災を含む安全に関する教育
3 講時	茨城に学ぶⅡ		実習	社会科科目研究（地理）	子どもの健康と生活指導
4 講時					
5 講時					
【集中開講】課題探索演習／社会科総合演習ⅠA 【実習】教材開発実習ⅠB（通年）／教科領域実習Ⅰ（通年） （青：共通科目 緑：専門科目 オレンジ：実習科目）					

～深い専門性と広い視野に基づいた授業をつくる力を身に付ける～

それぞれが設定した研究テーマに基づいて、フィールドワーク、ディスカッション、論文作成、作品制作、発表、教材開発などの研究活動を幅広く経験することができます。また、教科・分野にとらわれない広い視野を身に付けるため、教科を融合した「コース間融合科目」などを設定しています。



実習科目

- 教科領域実習Ⅰ**
附属学校園で、児童生徒の実態や教科指導の課題把握を行います。
- 教科領域実習Ⅱ**
県内小・中学校、高等学校で、授業づくりや授業実践を行います。
- 教材開発実習ⅠA**
市内小学校の放課後児童クラブ等で、児童の学力向上に向けた活動を行います。
- 教材開発実習ⅠB**
県内の歴史館や美術館などの社会教育施設で、ねらいに応じた子ども向けイベントの企画・運営を行います。

修了生の研究テーマ／例

- ◆高等学校地理歴史科「地理総合」における生活圏学習の単元開発
―土浦市中心部を事例として―
- ◆方程式を解くことの意味を解釈する活動に関する研究
―文章題の様々な解法を比較する活動を通して―
- ◆技術科問題解決学習における解決策の最適化を支援するアプリの開発と評価
- ◆ゴール型におけるフリーな味方にパスを出せる人と出せない人の違い
―状況の認知と予測に焦点を当てて―
- ◆英語の授業における生徒のコミュニケーションを促す方策

修了生の声



澁谷理絵さん

茨城県立多賀高等学校勤務
2023年度修了

私は人文社会科学部で教職課程を履修しましたが、教育実習等の実践をあまり積まないまま教壇に立つことに不安を感じていました。教職大学院では豊富な実習を通して実践経験を積むことができると知り、進学を決意しました。教科領域コースの授業では、論文や作品の精読を通して教科に関する専門性を高めるだけでなく、授業づくりの際に意識すべきことや、子どもたちへの学習支援の仕方等についても学ぶことができました。また、他教科・他コースと合同の授業も多かったため、教科や分野を横断した広い視野も身に付けることができました。2年次の教科領域実習は、1年次の附属学校園での実習を踏まえ、自分なりの研究課題を設定して取り組みました。授業をするだけで精一杯だった学部実習とは異なり、大学院の授業で学んだ知識や手法を取り入れつつ、どうすれば子どもたちにより良い学びを提供できるかを常に意識しながら指導する力をつけることができましたと感じています。放課後児童クラブや社会教育施設での実習では、学校と地域とのつながりを通して、教育に活かせる資源は学校外にも多く存在することを実感できました。2年間で得た学びをこれからの教職生活に大いに活かしたいと思っています。

専門科目—コース別科目—

- 国語科科目研究（国語学・書写書道／国文学・漢文学）
- 社会科科目研究（歴史／地理／社会と人間／法律と政治）
- 数学科科目研究（代数学・幾何学／解析学・統計学）
- 理科学科科目研究（エネルギー・粒子／生命・地球）
- 音楽科科目研究（表現／観賞）
- 美術科科目研究（絵画・彫刻／デザイン・工芸）
- 保健体育科科目研究（保健・体育学／運動学）
- 技術科科目研究（材料と加工・生物育成／エネルギー変換・情報）
- 家庭科科目研究（人間生活分野／生活環境分野）
- 英語科科目研究（英語学／英語文学）

■国語科

国語学・国文学・漢文学・書写書道の各分野を深く学び、教材の研究と開発、指導・評価方法の検討や授業設計などを行います。

（例）国語科科目研究（国文学・漢文学）

国文学・漢文学の分野では、テキストに掲載された作品を中心に、時代や作家についても深く学びます。



■社会科

歴史・地理・公民、各分野の素材研究、フィールドワーク、教材の研究と開発、指導・評価方法の検討や授業設計などを行います。

（例）社会科科目研究（歴史）

日本史の分野では、テキストに掲載された古文書の原本解読などを行い、専門知識を深めます。



■数学科

代数・幾何・解析・統計の各分野を深く学び、教材の研究と開発、指導・評価方法の検討や授業設計などを行います。

（例）数学科科目研究（代数学・幾何学）

代数学の分野では、数と式に関連した題材を扱ったテキストを読むことにより、専門知識を深めます。



■理科

エネルギー・粒子・生命・地球、各分野の素材研究、フィールドワーク、教材の研究と開発、指導・評価方法の検討や授業設計などを行います。

（例）理科学科科目研究（生命・地球）

地球上で見られる自然現象を多角的な視点から捉えて理解し、専門的見地から理科授業を設計できる力を高めます。



コース間融合科目の例

●社会の数理

ひとつの教科にとらわれず、教科・分野を横断する広い視野を身に付けるために「コース間融合科目」を設定しました。

「社会の数理」は社会的現象を数学の知識を活かして理解を深めていく授業です。授業では検地に活用する用具の製作に技術科の活動も取り入れて、「近世の検地」を実践します。

検地の道具づくり

歴史史料を解読、検討し、実際に道具を製作します。



検地の実践

製作した道具で検地を実践し、協働で学ぶ方法を検討します。



■音楽科

声楽・器楽・創作・鑑賞の各分野を深く学び、教材の研究と開発、指導・評価方法の検討や授業設計などを行います。

(例) 音楽科科目研究 (表現)

声楽・器楽の分野では、独唱や独奏、伴奏や合奏の楽譜や音楽書を読み、専門性を深め、授業設計力や実践的指導力を高めます。



■保健体育科

保健・体育学、運動学の各分野を深く学び、教材の研究と開発、指導・評価方法の検討や授業設計などを行います。

(例) 保健体育科目研究 (保健・体育学)

保健・体育学の分野では、健康科学やスポーツ科学の学術書を読み、専門知識を深め、授業設計力や実践的指導力を高めます。



■家庭科

家庭科の各領域を深く学び、生活事象を科学的に理解するための教材の研究・開発、指導・評価方法の検討、授業設計などを行います。

(例) 家庭科科目研究 (人間生活分野)

家庭経営領域では、統計資料等を用いて現代の生活問題の分析を行い、生活経営力を高めるための環境や教育について検討します。



■美術科

絵画・彫刻・デザイン・工芸・美術史での学びに美術科教育の視点を加え、教材開発や授業設計、指導・評価方法の検討を行います。

(例) 美術科科目研究 (絵画・彫刻)

絵画・彫刻の分野では、主に制作を通して表現と鑑賞に関する専門知識を深め、授業設計及び授業実践につなげます。

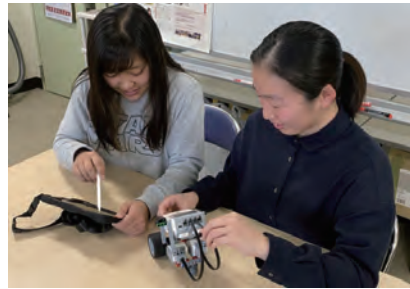


■技術科

「技術科教育の理念」と「技術科教育の在り方」を深く学び、指導の目標と内容、指導方法と評価の関係、授業設計などを行います。

(例) 技術科科目研究 (エネルギー変換・情報)

Society5.0の時代までの技術の進歩、社会の変化を見据えた技術科教育の在り方を検討します。



■英語科

英語学や英語文学の各分野を深く学び、異文化理解を促進できる教材の研究と開発、指導・評価方法の検討や授業設計などを行います。

(例) 英語科科目研究 (英語文学)

英語文学の分野では、テキストに掲載された作品を中心に、創作の社会背景、作家の思想等から、異文化理解の教材としての援用力を高めます。



コース間融合実習の例

●教材開発実習ⅠA／教材開発実習ⅠB

専門とする学校種や教科にとらわれず、子どもの実態に応じた教育活動を展開する力を身に付けるために「コース間融合実習」を設定しました。

「教材開発実習ⅠA」は、放課後児童クラブ等において、子どもの実態を把握した上で、コース間融合科目等において開発した教材を活用して、子どもたちの学力や体力の向上に資する活動を実施します。

「教材開発実習ⅠB」は、地域の社会教育施設（歴史館、美術館など）において、施設の特性を活かした子ども向けの教育普及活動に参画し、イベントの企画・運営、実践補助に関する活動を実施します。



放課後児童クラブ等での活動／上2枚



教育普及活動への参画／下2枚



特徴

コースの

教員像

育成する

能力

身に付ける

◆自立活動の実践を支えるアセスメント能力と，特別支援教育の教材を開発する能力の 2 つを軸としたカリキュラムを編成。

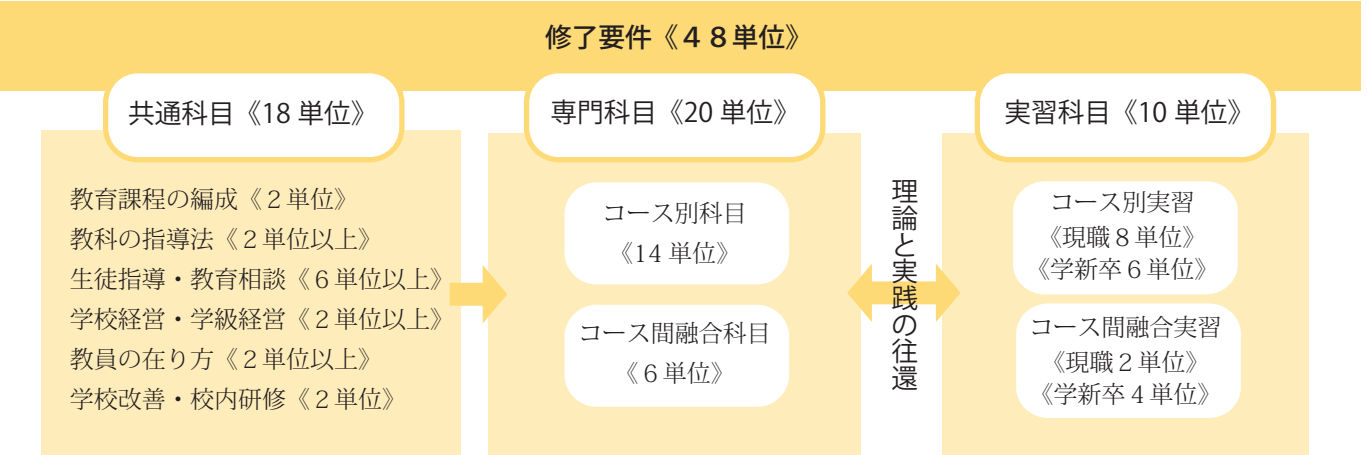
◆特にアセスメント理論に関する科目を受講したあとに「アセスメント実践研究」という実習科目につなげるなど，理論科目と実習科目を有機的に連携させてカリキュラムを編成している点は他大学にはみられない特徴的なものである。

《学部新卒者等》特別支援教育に関するアセスメント能力と教材開発力を高め，特別支援学校や特別支援学級で子どもの特別なニーズに専門的に対応できる教員。

《現職教員》アセスメント技法の深い理解や，インクルーシブ教育をふまえた授業づくりの視点をもつなどの新しい力量を身に付け，校内の教育内容研究をリードし，近隣の学校や地域に発信することができる教員。

(1) 子どもを深く理解できる力（多様な子どもの学習能力の実態把握）
(2) 広い視野（教科・分野横断的視点）
(3) 深い専門性（特別支援教育の深い専門性）

取得可能免許 【専修免許】 特別支援学校， 小学校， 中学校（各教科）， 高等学校（各教科）



時間割の例／1年次（令和6年度）

前期	月	火	水	木	金
1 講時	発達障害児の理解と支援		実習	心とからだの発達と保健	学級力を高める コミュニケーション
2 講時	知的障害児の アセスメントと支援Ⅰ	読み・書き・計算の つまずきと支援		主体的・対話的で深い 学びの授業づくり	特別支援学校のセンター的 機能とケースカンファレンス
3 講時	カリキュラム・マネジメント の理論と実践Ⅰ	特別支援教育の自立活動 の授業づくり			
4 講時	茨城の教育改革と 開かれた学校づくり			動きにぎこちなさがみら れる子どもの指導方法	ICT 活用と プログラミング
5 講時	特別支援教育総合演習				
【集中開講】カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ／課題探索演習／ 特別支援学校の授業づくり 【実習】教材開発実習ⅠA／教材開発実習ⅠB（通年）／特別支援教育教材開発実習Ⅰ／ 特別支援教育ケースカンファレンス実習Ⅰ（通年）					
（青：共通科目 緑：専門科目 オレンジ：実習科目）					
後期	月	火	水	木	金
1 講時			実習	インクルーシブ教育の 学校づくり	
2 講時	教育測定（評価）と 校内研修			学校における多様性の 受容と活用	
3 講時					子どもの健康と生徒指導
4 講時	感覚障害児の アセスメントと支援				障害児の生理機能評価と 支援
5 講時	特別支援教育課題発見演習				
【実習】教材開発実習ⅠB（通年）／特別支援教育アセスメント実習Ⅰ					
（青：共通科目 緑：専門科目 オレンジ：実習科目）					

～アセスメント能力と教材開発力を高めて特別支援の実践をリードする～

知的障害や肢体不自由、感覚障害などさまざまな障害児のアセスメント方法や授業づくりを学ぶとともに、発達障害や自閉症児の心理検査や教材の開発など、教育現場で求められる最新の科学と実践を学びます。

授業の例

共通科目（例）

- インクルーシブ教育の学校づくり ●特別支援教育の自立活動の授業づくり
- 発達障害児の理解と支援
- 特別支援学校のセンター的機能とケースカンファレンス

専門科目—コース別科目—（例）

- 特別支援学校の教材開発 ●特別支援学校の授業づくり
- 知的障害児／感覚障害児のアセスメントと支援
- 障害児の生理機能評価と支援

専門科目—コース間融合科目—（例）

- 読み・書き・計算のつまずきと支援
- 動きにぎこちなさがみられる子どもの指導方法



■特別支援学校での教材づくりの例
算数の一環で、「たのき屋」という単元のなかで数概念の獲得をねらって作成された教材です。



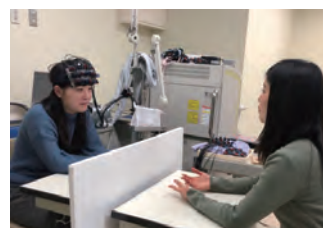
■特別支援学校での授業づくりの例
附属特別支援学校と連携し、知的障害児の新しい教育実践を開発します。写真はプログラミング教育の授業を実践しているところです。



■ケースカンファレンス実習の例
幼稚園や保育園を訪問し、子どもと一緒に遊びながら、気になる子どもの実態把握を行い、支援計画を立てます。



■アセスメント実習の例
知的障害児に対して実際に心理アセスメントを行い、その結果の解釈について、グループで話し合っています。



■生理機能評価の例
NIRSにて実会話場面での前頭領域の脳活動を計測しています。生理指標から困難さの背景にある要因を探ります。

コース別実習科目

●特別支援教育アセスメント実習

実際に知的障害児や自閉症児に心理検査を実施し、その結果から支援計画を立案します。

●特別支援教育ケースカンファレンス実習

幼稚園や小学校をフィールドにして、気になる子どもの事例検討を実際に行います。

●特別支援教育教材開発実習

知的障害児教育で求められている新しい課題（例：道徳・主権者教育等）に対応する実践方法を考えます。

修士生の研究テーマ／例

- ◆知的障害児に対する防災教育に関する実践研究（現職派遣教員）
- ◆重度・重複障害児における意思表示に関する事例的検討（学部新卒者）

修士生の声



大谷 萌さん

茨城県立つくば特別支援学校勤務
2023年度修士

教職大学院では、従来の大学院とは異なり、実践的な授業や実習が用意されていることが魅力的です。大学院を飛び出し、幼稚園や学校、社会教育施設に足を運んで子どもたちと関わるなど、学部ではできなかった経験ばかりで刺激的でした。たとえば、特別支援教育ケースカンファレンス実習では、幼稚園の先生方の話を聞いたり、園児の実態を観察したりしながら、「気になる子」の個別の支援計画を作成しました。翌年度も同じ実習が用意されていたので、前年度に支援の対象となった幼児の成長や支援の成果を実感できました。コース間融合科目の授業では、他コースの専門性と、特別支援科学コースの専門性を持ち寄り、お互いに意見を出し合いながらひとつの授業を作ったり、支援方法を考えたりしました。各コースの視点を活かしながら議論したことは、とても有意義な経験になりました。授業や実習以外にも、実践研究として、重度・重複障害のある女兒と毎週関わる機会をいただきました。コミュニケーション場面での表出行動を分析することで、お子さんの小さな変化の一つ一つを丁寧に見取ることの大切さを学びました。教職大学院の2年間で同期や先生方と意見を交わし、多様な考えに触れることができたことは、私にとってかけがえのない経験になりました。実習や授業、研究を通して得られた経験を、これから特別支援学校の教員として活かしていきたいです。

特徴
コースの

育成する
教員像

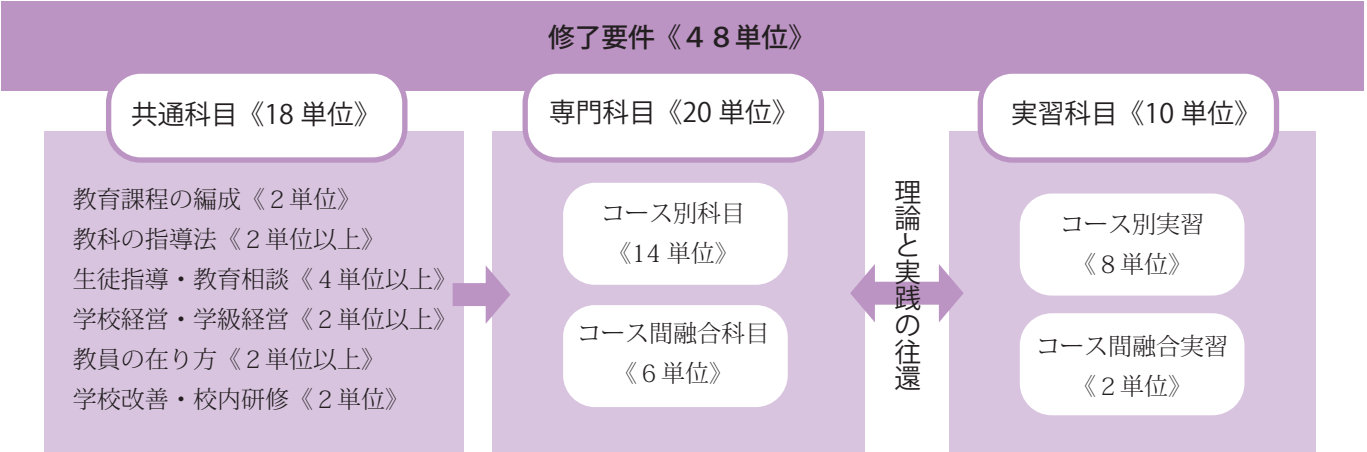
身に
付ける
能力

- ◆専門科目での養護教諭に必要な実践的課題解決のための科目に加え，共通・融合科目において他職種との連携に焦点を当てた科目を開講し，現在求められているチーム学校の推進にあたって必要な資質・能力を育成する。
- ◆実習科目では学校はもとより病院など養護教諭が実務において接することの多い機関・施設での実習も含み，他職種連携を立体的に実現する。

《学部新卒者等》養護の高度な専門性の追求と多職種連携を核としたチーム・アプローチにもとづく学校マネジメントに主体的に参画できる教員。
《現職教員》多職種連携的な養護実践力とカリキュラム・マネジメント能力を身に付け，子どもたちの発達段階に応じた支援を意識しながら，児童生徒の主体的な健康管理能力と多面的な発達を促す支援を学校全体で推進していくことができる教員。

- (1) 子どもを深く理解できる力（児童生徒の心身の健康状態の実態把握と支援する力）
- (2) 広い視野（多職種と連携し展開する力）
- (3) 深い専門性（養護の深い専門性）

取得可能免許 【専修免許】養護教諭，中学校（保健），高等学校（保健）



時間割の例／1年次（令和6年度）

前期	月	火	水	木	金
1 講時	発達障害児の理解と支援			心とからだの発達と保健	
2 講時					特別支援学校のセンター的機能とケースカンファレンス
3 講時	カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅰ		実習		
4 講時	茨城の教育改革と開かれた学校づくり			動きにぎこちなさがみられる子どもの指導方法	
5 講時					
【集中開講】カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ／課題探索演習 【実習】教材開発実習ⅠA／教材開発実習ⅠB（通年）／子どもと大人への一次救命処置実習／養護科学実習Ⅰ（通年）					
（青：共通科目 緑：専門科目 オレンジ：実習科目）					
後期	月	火	水	木	金
1 講時				インクルーシブ教育の学校づくり	学校における医学・看護学
2 講時	教育測定（評価）と校内研修			学校における多様性の受容と活用	防災を含む安全に関する教育
3 講時		実習	実習		子どもの健康と生徒指導
4 講時				健康科学と社会創造	養護活動と健康増進科学
5 講時					
【集中開講】養護科学課題発見演習／臨床医学特論 【実習】教材開発実習ⅠB（通年）／養護科学実習Ⅰ（通年）／養護科学実習Ⅳ					
（青：共通科目 緑：専門科目 オレンジ：実習科目）					

～養護の専門性と連携力、養護教諭の新たな可能性を探求する～

養護教諭は小学校、中学校、高等学校、あるいは特別支援学校などで主として単数配置として配属され、多様な児童生徒の発達段階に応じた対応と支援が求められます。一人ひとりが求める養護実践力を高めるとともに、他コース学生と講義や実習を行うことによって他職種の視点や考え方を吸収し連携する力に繋がっていきます。

授業の例

専門科目—コース別科目—

- 養護学・学校保健学**（養護活動と健康増進科学、健康科学と社会創造）
子どもの心身の健康状態の実態を把握し課題解決に向けての養護活動を展開する実践力を養うとともに、未来を見据えた子どもたちの健康についての保健指導や授業・教材への活用の視点、応用力を学びます。
- 臨床医学・看護学**（学校における医学・看護学、臨床医学概論）
学校において遭遇する頻度の高い児童生徒が主な対象となる疾患・外傷について、医学および看護学的対応を理解・考察し、養護実践に活用する力を学びます。

実習科目

コース別実習

（保健室や学校行事等を通して多職種との連携的視点から養護教諭の専門性を深めます）

●養護科学実習Ⅰ～Ⅳ

附属学校や県内小中高・特別支援学校で実施します。

1年次はⅠ（通年）とⅣ（後期）、2年次はⅡ（学部新卒者等）とⅢ（現職教員）です。Ⅰ・Ⅱは小・中・高・特別支援学校で、Ⅲは現任校で、Ⅳは特別支援学校（肢体不自由、病弱）で行います。

コース間融合実習

（他コース学生とともにいき、それぞれの視点や考え方を共有・理解します）

●教材開発実習

市内小学校の放課後児童クラブや県内の社会教育施設で実施します。

●子どもと大人への一次救命処置実習

県内の病院等で実施します。



■日本学校保健学会の参加

教育学研究科養護教育専修では各自の研究を学会で発表してきました。教職大学院でも、実習と演習を通し得られた新しい知見や成果の発表を目指します。



■教育実践フォーラムの様子

養護科学コースは、コースとして初めて教育実践フォーラムに参加し、3名の2年生がそれぞれの研究テーマである実践研究課題についてオンラインで発表しました。



■大学院生の成果を手に取る卒業生

大学院生が研究成果としてまとめた冊子「アルゴリズム - 養護教諭のための救急対応自己研修ツール -」。学部を卒業し養護教諭として巣立つ卒業生へのプレゼント。先輩から後輩への温かいエールです。

修了生の研究テーマ／例

- ◆子ども理解とチーム学校の一員としての養護教諭の実践力
～子どもたちの規則正しい生活習慣の獲得に向けて 視力に着目して～
- ◆特別支援学校における
性に関する指導の実態とよりよい指導の在り方
- ◆小学生に対する保健だよりの有効性に関する検討

修了生の声



鈴木美香さん

茨城県立水戸飯富特別支援学校
2022年度修了

大学卒業後すぐに学校現場で働くことに少し不安があったため、実習が多くあり実践経験が積める教職大学院への進学を決めました。現職の先生方や他コースの学生と講義や実習を通して交流することから、様々な立場及び他職種の視点や考え方を知る良い機会となるとともに魅力を感じた点です。大学院1年目の実習は、小学校、中学校、高校、特別支援学校と様々な学校種で学ばせていただきました。そのなかで、小学生から中学生にかけての計9年間の子どもの成長発達を見ることができ義務教育学校に魅力を感じるとともに、子どもたち一人ひとりの個に応じた支援や指導を行う特別支援教育に興味をもち、2年目の実習校は義務教育学校と特別支援学校の2校を選択しました。私の研究課題が、視力に着目した子どもたちの生活習慣についてであったため、2年目の実習では、健康診断や保健室の職務を中心に行いました。研究において子どもたちの経年的な視力検査結果を使用させていただいたり、年間を通した養護教諭の職務を体験させていただいたり、学部生では経験できない、実践的で実りある時間を過ごすことができました。実際の養護教諭の職務を学ぶことができ、学校現場で働く前のスモールステップにもなったように感じます。異なる学校種で実習することで、それぞれの学校の特徴や求められる養護教諭としての職務についても知ることができました。大学院で学んだ多様な子どもたちの発達段階に応じた対応と支援について、幅広い視野をもち、これからの実践につなげていきたいと思います。

教職大学院に行くメリットにはどのようなものがありますか？

学部新卒者が大学院に進学する理由には、卒業研究をもう少し実践的に深めたい、現場に出る自信をつけたい、大学院で学びながら教員採用試験にチャレンジしたいなど様々です。学校現場に出ると、日々の業務が忙しく自分の時間を確保することはなかなか難しいものです。そのため、自分の関心のある研究を続けたかったり、より知識を深めたいという人にとっては教職大学院への進学は大きなメリットとなるでしょう。現職派遣教員の大学院生は、学校を広く捉えられるようになる、新しい観点を得られる、これまでの仕事を振り返りそれらを理論的に捉え直せる、若手と話すことによって若い頃の感性を思い出せる、などのメリットを挙げる人が多いです。

教職大学院の実習は学部の教育実習と何が違うのですか？

教職大学院の授業では、10単位（400時間）分の実習をしなければならない規則になっています。それでは、教職大学院の実習と学部で行った教育実習とではどのような違いがあるのでしょうか。

一つ目は、学部の実習が教員としての基礎を身に付け、免許取得を主たる目的にしているのに対して、教職大学院の実習は、自らの研究テーマをもって行われるということです。学部の教育実習では、指導案を書いて授業を展開するだけで精一杯だったという人が多いと思います。一方、教職大学院の実習では、自らの研究テーマを実践で試してみようというものになります。そして、その実践から得た課題をふまえて、自身のテーマをさらに深めていきます。

二つ目は、コースによって様々な実習形態があるということです。2年間同じ学校で実習をすることで学びを深めるコースもあれば、適応指導教室や博物館、放課後児童クラブ等での実習によって、教育をより幅広い観点から捉えることができるコースもあります。

三つ目は、理論と実践の往還を意識した実習になるということです。教職大学院では、実習後に教員と一緒に振り返り、次の実習に進みます。また、講義や演習で得た知識や技術を実習で活用してみるような機会もあります。これによって、試行錯誤しながら、実践に必要な力を高めていくとともに、教科や指導の本質を深く理解することになります。大学院生はすでに教員免許状を取得済みなので、学校側から一人の教員として見られることも多くなります。その分、より教員の立場に近い実践的な実習になるといえるでしょう。

コース間融合実習とは何ですか？

コース間融合実習は、コースによって特徴が異なります。しかし、共通するのは、専門や経験を異にする6コースの大学院生が、互いの視点を取り入れて研究を幅広く捉えるということです。大学院生の中には、学部新卒者もいれば現職派遣教員もいます。これらの様々な観点を取り入れて行うのがコース間融合実習となります。一例をあげますと、コースの垣根を越えて共通の教育課題を発見し、その対応を検討するというものがあります。例えば、「勉強が分からない」と訴える子どもを多角的に支援するために、様々な教科の視点を融合させたり、そこに特別支援教育の観点をを入れて「学校で勉強してみようと思える学習プログラム」の教材開発を行ったりします。この場合は、教科と特別支援の融合となるでしょう。

コースによっては、自分の漠然とした研究課題をより明確化して、実践的で具体的な課題にしていくためにコース間融合実習が設定されています。



↑ 課題発見実習報告会の様子
課題発見実習では、入学時の漠然とした研究テーマを練り直し、具体化することを目的として、附属学校園での実習を行います。この実習を通して、どのように研究テーマが明確になったのかについて発表します。

採用の猶予とは何ですか？

茨城県では、公立学校教員採用試験で、合格者が大学院進学または大学院在学者である場合、大学院修了時まで採用の猶予を特別に認めています。この特例措置により教職大学院での研究を継続・修了した後、学んだことを教員として活かしていくことができます。

現職派遣教員の学び方はどうなりますか？

茨城県教育委員会から派遣された現職の先生方は、1年目は基本的に大学で授業を履修します。2年目は現任校に戻って実践研究を行うこととなります。管理職等や大学の指導教員、大学院生とで協議を重ねながら現任校において研究を進めます。実践研究は大学院生が単独で行うものではなく、大学の指導教員が何度も学校を訪問し、直接その場で大学院生の相談にのりながら進められます。大学教員は学校や児童生徒の実態を理解したうえで指導することになりますので、より実態に即した研究がすすめられます。

ミドルリーダーとしての取り組みが求められるため、研究は、例えば自分の学級のことだけでなく、現任校での授業改善であったり、校内研修を企画して研究の成果を発表したりといった活動になります。

現任校でのこのような取り組みを省察する時間として、2年目は週に1回大学に来て、それぞれの研究テーマにもとづいた学修をゼミ形式で進めることを基本とします。現場から少し離れて自分の研究テーマを見つめ直したり、実践の観点を追加したり深めたりして、研究を進めていきます。

新たに教員免許状を取得することはできますか？

本学の教職大学院では、令和3年度からのコース拡充にあわせて「教員免許取得支援プログラム」があります。本プログラムでは、2年間の修学期間中に本学教育学部の教職科目の履修を可能とすることで、皆さんが所持する、あるいは取得見込の免許状の隣接校種の免許状取得、あるいは二種免許状の一種免許状への上進などを支援します。なお、学部の授業は大学院の授業の空き時間に履修してもらうことになるため、本プログラムを受講したとしても2年間の修学期間中に希望する免許状の取得等に必要な単位を修得できない場合があります。

本プログラムの受講には、入学者選抜試験出願の際に申請が必要です。選抜試験に合格しても、希望する免許種、出願時に所持している免許や単位修得状況（それぞれ取得・修得見込を含む）によっては受講が許可されない場合もありますので、本プログラムの受講を希望する場合は必ず出願前に本学教育学部学務グループへご相談ください。

誰も置き去りにしない、
すべての子どもの力を伸ばす
教員の育成を目指して



■アクセス

JR水戸駅（北口）バスターミナル7番乗り場から茨城交通バス「茨大（栄町経由）」に乗車、「茨大前」で下車。 ※乗車時間は約30分です。

または、JR赤塚駅（北口）バスターミナルから茨城交通バス「茨大前（曙町経由）」に乗車、「茨大正門前」で下車。

■ウェブサイト

大学院教育学研究科ホームページ <http://www.edu.ibaraki.ac.jp/master/>

茨城大学ホームページ <http://www.ibaraki.ac.jp/>

教育学部ホームページ <http://www.edu.ibaraki.ac.jp/>

■お問い合わせ先

〒310-8512 茨城県水戸市文京 2-1-1

国立大学法人 茨城大学教育学部 学務グループ 電話 029-228-8204, 8208



茨城大学大学院教育学研究科教職大学院 案内
2024年3月発行





教職大学院 学 生 募 集

Ibaraki University

Graduate School of Education

Division of Professional Practice in Education

■募集人数	学校運営コース	現職教員 7 名	
	教育方法開発コース	現職教員・学部新卒者等	4 名
	児童生徒支援コース	現職教員・学部新卒者等	4 名
	教科領域コース	現職教員・学部新卒者等	22 名
	特別支援科学コース	現職教員・学部新卒者等	3 名
	養護科学コース	現職教員・学部新卒者等	3 名

■選抜方法 【学部新卒者等】

コース	受験者の区分	検定科目
教育方法開発コース 児童生徒支援コース	小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状のいずれかを有している者もしくは取得見込みの者	論述試験 口述試験
教科領域コース	小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状、高等学校一種免許状のいずれかを有している者もしくは取得見込みの者	論述試験 口述試験
特別支援科学コース	特別支援学校一種免許状を有している者もしくは取得見込みの者	論述試験 口述試験
養護科学コース	①養護教諭一種免許状を有している者もしくは取得見込みの者 ②養護教諭二種免許状を有し、教員経験 3 年以上を有する者 ③養護教諭二種免許状及び保健師免許状を有する者もしくは取得見込みの者	論述試験 口述試験

■選抜方法 【現職教員】

コース	受験者の区分	検定科目
学校運営コース	教員経験 10 年以上を有し、国、地方公共団体及び茨城大学教育学部附属学校園からの派遣による現職教員	口述試験
学校運営コース以外のコース	教員経験 10 年程度以上を有し、国、地方公共団体及び茨城大学教育学部附属学校園からの派遣による現職教員、又は大学院修学休業制度により出願する現職教員。上記「学部新卒者等」における志望コースの「受験者の区分」を満たすこと。（ただし、養護科学コースを②、③で受験する場合は、2 年間恒常的な通学が可能なる者）	口述試験

■入学金 282,000円（茨城県教育委員会派遣の方は入学金を全額不徴収とします）

■授業料 535,800円（年額）（令和5年度現在）

■入学料・授業料の免除制度や奨学金制度について

修学を支援するために、入学料及び授業料の免除制度があり、それぞれ納入前に申請を行う必要があります。免除の認定には一定の条件があり、家計収入状況等の資料が必要となります。また、主な奨学金制度として日本学生支援機構の奨学制度のほか、地方公共団体や公益法人などが行う奨学制度があり、このほかにも本学独自の奨学制度で学生支援を行っています。これらはいずれも、人物・学業ともに優れ、かつ健康であって、経済的理由により修学が困難な学生である学生に対して、本人の願い出にもとづいて、選考のうえで貸与されます。茨城県教育委員会派遣の方については、入学金を全額不徴収とします。